

## 新しい時代に求められる資質・能力

藤本 睦子(本学教職研究科准教授 教育学)

今夏の暑さは厳しく、極めて危険、外出を控えて、運動は中止と呼びかけられる日が続いた。また、ゲリラ豪雨、落雷が頻繁に起こりもした。大きな地震もあった。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。さらに、臨時情報「巨大地震注意」の呼びかけがあり、防災への意識が高まっている。防災グッズの補充をされる方も多く、スーパー等の陳列棚は空っぽになっていた。日頃の備えが大切だと言われていながらもできていなかったことを見直し、正しい情報を見極め、自分に取り入れていく大切さを改めて感じた次第である。

さて、今年度の全国学力・学習状況調査の中学3年の国語では、「フィルターバブル現象」について話し合う様子を題材に、話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く問題が出題された<sup>1</sup>。「フィルターバブル」とは、2011年にイーライ・パリサーが提唱した概念で、インターネットの検索履歴が「フィルター」となって同じような情報ばかりが表示されてしまい、その結果、まるで「泡」の中にいるように、自分が見たい情報しか見えなくなってしまうことを指している。なお、この出題の出典等は、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(令和5年7月4日文部科学省初等中等教育局)、イーライ・パリサー著/井口耕二訳『フィルターバブルインターネットが隠していること』(2016年3月早川書房)、総務省編『令和元年版情報通信白書』(2019年7月)である。

正答例として、「〇〇さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。」「〇〇さんのように、どのような本を読みたいのかが決まっているときには、フィルターバブル現象を利用すると、たくさんの本

から短時間で本を選ぶことができ便利だと思うので、情報の偏りに気を付けながら、インターネットを使って本を選ぶことも取り入れていきたいと思います」と発表された。出題の主旨は、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができるかということである。

次期教育振興基本計画について(答申)において、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイング(Well-being)の向上」が掲げられている。将来の予測が困難な時代において、一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きいとされ、Society5.0で活躍する「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「チームワーク」等の資質・能力を備えた人材の育成等について示されている。

このような資質・能力を育てる一つとして、フィルターバブル現象の話合いの授業を行ってみてはどうだろうか。多様な意見や考えを交流し、自らの考えをまとめることで、子どもたちの言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等が深められていくのではないだろうか。現代社会を生きる私たちは、さまざまなメディアに囲まれて生活している。「本当にそうだろうか?」と自分自身で考えたり、情報を集め直したりすることが必要であり、「これでよいのだろうか?」「はて?」と自ら疑問を持ち、探究心を持って粘り強く学ぶ姿勢が、これからの時代を生き抜く上で必要な資質・能力となるのではないだろうか。

ところで、誰でも簡単に情報を発信できる時代となり、SNS等での「誹謗中傷」等が大きな問題になっている。言葉の暴力等によって人としての尊厳を脅かす行為が起こらない社会でなければならない。ウェルビーイング(Well-being)の向上をめざしていきたい。

<sup>1</sup>「令和6年度全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 国語」令和6年4月国立教育政策研究所教育課程研究センター